

令和５年度 富士見小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（１）基本目標

心豊かで健やかな体を持ち、創造性豊かに自ら学び自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよい社会の発展を目指して、たくましく生きる児童の育成を目指す。

（２）具体目標

- 心豊かで、思いやりのある子ども（心豊かな子）
- よく学び、工夫する子ども（よく学ぶ子）
- 健康で、たくましい子ども（たくましい子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童と教職員の望ましい人間関係を基盤に、確かな児童理解に裏打ちされた、一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導を通して、児童の多様な個性・能力を最大限に伸長する。また、支え合い高め合える集団を形成して、すべての児童が自信と誇りの持てる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

教育目標の具現化を目指し、教職員が一丸となって居がいと活力のある学校づくりに努める。

（１）認め励ます指導を基本とした心の教育の推進

- ・ 自己有用感、規範意識、他者を思いやる心の育成及び組織的な指導の充実
- ・ 道徳教育を核に、教育活動全体を通した豊かな心やたくましい心の涵養

（２）基礎・基本の確実な習得と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

- ・ 「宇都宮モデル」の活用を通した主体的・対話的で深い学びの推進
- ・ ICT環境の有効活用等を通した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実

（３）健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

- ・ 教科体育、元気っ子チャレンジや各種検定、食育等の校内共通した取組の充実
- ・ 危険を予知し、自らの命を守り抜くための判断力や行動力の育成

（４）教職員の資質・能力の向上と働き方に関する改善

- ・ 協働的な同僚性による校内研修や教職員どうしの学び合いの充実
- ・ 協働体制による業務の適正化を通したワークライフバランスを意識した働き方の推進

（５）地域とともにある学校づくりの推進

- ・ 地域の教育資源を生かした教育活動の展開と家庭・地域と連携した学びの実践
- ・ 学校園における小中の連携と、義務教育９年間を一体とした指導の推進

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

「心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～」

4 教育課程編成の方針

- ・ 新学習指導要領をはじめとして、関係法令、国、県、市の方針や重点及び本校の実情や課題を踏まえ、教育目標の具現化を目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ○ 確かな児童理解に裏打ちされた、一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導の充実 ・ 校内の業務の適正化や ICT 環境の有効活用を通じた学校における業務改善の推進 (2) 学習指導 ○ 自ら学び、思いや考えを表現し、学び合う児童の育成 ・ 自分の考えを広げ深めることのできる授業づくりの推進 (3) 児童生徒指導 ○ よりよい生活集団づくりを通じた、規範意識と自己有用感の育成 (4) 健康（体力・保健・食・安全） ○ 体力の向上を目指して運動に親しみ、健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成（1）学校運営

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①一人一人が自由に発言できるような学習集団作りに努めるとともに、ねらいを達成させるための適切な学習形態を工夫し、考えや表現を広め深める対話的活動を設定することで、コミュニケーション力を育成する。 ②課題の提示や教材の工夫をし、さらに主体的に学習に取り組めるようにする。 ③教育課程の円滑な実施のため、主体的、対話的で深い学びについての実践研究を行う。	B	【達成状況】 教職員 97.1% 児童 91.5% 保護者 88.4% ・ペアやグループ活動を適宜取り入れながら、ICT を効果的に活用して話し合っていた。 ・児童に身近な話題を取り上げるなど導入の工夫を行うことで、主体的に学習に取り組む様子が見られた。 【次年度の方針】 ・教師のコーディネート力を高めることにより、児童の主体的、対話的で深い学びに向かう授業づくりに努める。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 教職員 85%	①体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ②児童会や清掃における縦割り班活動等を通して、相手の立場を考えた思いやりの心を育む。	B	【達成状況】 教職員 97.1% ・児童の肯定的回答率が 92.4%で、宇都宮市の平均と比べて 1.9 ポイント上回った。 ・教職員の肯定的回答率が 97.1%で、目標値を上回り、さらに市の平均を 0.2 ポイント上回った。 ・感染症対策が終わり、縦割り班や人権週間などの活動が充実し、加えてまごころカードや道徳科の授業を通じて、思いやりの心を育んできた。 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、まごころカードや帰りの会で自他の良さを認め合う機会を多く設けたり、道徳科の授業や人権教育、縦割り班活動を通じて、他者の良さに目を向けたりしながら、思いやり、助け合える児童の育成に努める。

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童 85%	①授業や各種検定等において、児童が主体的に目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ②道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。	B 【達成状況】 教職員 100% 保護者 84.8% 児童 88.6% ・学習や生活、各種行事において、身に付ける力などの説明をしたり、めあての設定や振り返りを行ったりし、目標に向かって努力している児童を認め励ます指導に努めた。 【次年度の方針】 ・すべてに教育活動において、児童が主体的に目標に向かって取り組めるような場を適宜、設定し支援していく。
1－(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 教職員 85%	①運動委員会を中心に元気っ子チャレンジや各種検定に挑戦する場を設定し、目標をもって積極的に運動を実施することで、体力向上への意欲を高める。 ②「安全に・衛生的に」の共通理解を徹底するとともに、毎日の給食指導を着実に実施し、給食週間中に、食事のマナーや栄養のバランスについての指導を行う。 ③危機を予測し自らの命を守り抜く判断力・行動力の育成に向けて、日常における安全指導の充実と、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B 【達成状況】 教職員 94.3% 児童 92.5% 保護者 92.2% 地域住民 100% ・運動委員会を中心に元気っ子チャレンジを運営し、運動に親しむことができた。各種検定については、各学年の実態に応じて、実施した。 ・日常の給食指導の中で、「安全に・衛生的に」の共通理解を徹底することで、児童の給食の意識を高めることができた。また、栄養教諭を中心に日常的に食事のマナーについて指導を行った。 ・安全教育を計画的に実施することにより、実際に地震があった際に自ら命を守る行動をとる様子が見られた。 【次年度の方針】 ・体育科の授業において、サーキットトレーニングや活動量を確保できる授業展開を工夫して、体力の向上に努める。 ・給食の時間にランチルームを活用して、楽しく会食できるようにする。 ・屋外で過ごす時間が昨年度より増えたので、各学級での安全指導を徹底する。
1－(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童 85%	①日々の学習や生活で振り返りの場面を設け、自分の成長や変化について自分自身で考えたり、友達に教えてもらったり認めてもらったりして、気付かなかった自分のよさや成長を実感できるようにする。 ②授業や各種検定等において、目標の達成に向けて努力している児童を称賛することで、児童が成長を実感できるようにするとともに、新たな目標の達成を目指そうとする態度を育てる。 ③道徳や特活、友情とテーマとした国語の物語を通して、友達の成長を願い、励まし合い、高め合おうとする態度を育てる。	B 【達成状況】 教職員 97.1% 児童 91.8% ・学習や特別活動、日々の生活の中での振り返りの場を大切にする中で、児童が自分の成長に気付くことができていた。 ・児童の頑張りを認め、新たな課題を与えるなど、成長を促す支援をしたことで、自らを高めていこうとする児童の姿が見られた。 【次年度の方針】 ・引き続き振り返りの場を大切にする中で、児童が自分や友達のよさに気付くことができるように支援をする。

2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 児童 85%	①相手意識や目的意識を大切にした 外国語活動の授業を通して、英語で 伝え合う楽しさを感じ、積極的にコ ミュニケーションを図ろうとする 態度を育成する。 ②打ち合わせを綿密に行うことで A L T との連携を充実させるととも に、外国語専科による授業を行うこ とで、児童の興味・関心を喚起させ る授業づくりに努める。	【達成状況】 教職員 85.7% 児童 85.2% ・コミュニケーションを図ることを楽 しんでいる様子を伺うことができ、わか らない表現にも質問して答えようとし ている。 ・既習の表現を用いたり、表したいこと を言い換えたりする力に余地がある。 【次年度の方針】 ・英語をより主体的に使って、会話がで きような授業づくりに努める。
	A 7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 児童 85%	①生活科、社会科、総合的な学習の時 間の授業や校外学習等において、学 習内容と関連させながら、児童が身 近な地域や宇都宮市の良さに気付 く指導を系統的に行えるように努 める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、 伝統産業、特産物等について理解を 深められるよう努める。	【達成状況】 教職員 82.9% 児童 88.5% 保護者 71.9% ・社会科、宇都宮学の副読本やインター ネットでの調べ学習、出前授業、校外学 習を通して、身近な地域や宇都宮の良さ に気付くことができた。 ・身近な地域、宇都宮の良さに気付かせ る教師の働きかけが引き続き必要であ る。 【次年度の方針】 ・校外学習や地域教材を通して、宇都宮 の良さや特産物等について、興味・関心 を高められるようにする。 ・社会科や生活科、総合的な学習（宇都 宮学）、道徳を中心に、自分の住んでい るところの良さを意識付ける。
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 児童 85%	①児童が情報手段に親しみ、適切に活 用する能力を育成できるよう、授業 において積極的に I C T 機器を活 用する。 ②辞典の使い方や図書資料での調べ 方等について学校図書館司書を授 業に活用し、図書室利用の充実を図 る。 ③授業の中で 1 人 1 台端末の効果的 活用を図るとともに、プログラミング 教育の計画的な実践に努める。 ④各学年の授業内容との関連に配慮 した教育図書の整備充実等、学校図 書館の環境整備に努める。	【達成状況】 教職員 91.4% 児童 88.9% 保護者 83.9% ・Chromebook を授業で使用したり、長期 休業の際には、AI ドリル等を宿題に出 すなどして、活用したりすることができ た。 ・図書資料を学習に積極的に活用でき た学年が多かった。 【次年度の方針】 ・調べ学習だけでなく、自らの考えを表 現したり、学びを振り返ったりするな ど、多様な場面で使用できるようにして いく。
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 児童 85%	① ごみの分別や節水、節電を心掛け るなど、環境に対する意識を高め る指導を行う。 ② 各教科において、植物や動物など の生き物の世話をすることで、環 境と調和しながら生きる意識や 態度を育成する。	【達成状況】 教職員 62.9% 児童 87.8% ・植物の世話やごみの分別、牛乳パッ クのリサイクル等を通して、環境に対 する意識を高める指導をした。 ・引き渡し訓練をはじめ、地震火災の防 災訓練を実施し、避難経路等を確認し た。また、竜巻訓練で過去の災害の様 子を写真で見せることで災害の恐ろし さを事前に伝え、真剣に取り組むこと ができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、清掃活動や自然と触れ合 う活動を通して、環境問題に対する意 識を高めていく。 ・より実践的な災害状況を想定し、防 災訓練を継続する。

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員 85%	①教育相談や個人懇談等を計画的に実施し、一人一人のニーズや実態を踏まえた支援に努める。 ②他学級との授業交換や学年合同活動を行い、広く児童理解・学業指導に努め、児童が教師及び児童相互の信頼関係を深めながら、学校生活が送れるようにする。	B 【達成状況】 教職員 97.1% ・教職員の肯定的回答が、97.1%で、目標値を大きく上回った。 ・今年度も一人一人の児童理解や、年二回の教育相談を通して、児童が安心感や満足感を得ることができ、教職員と児童の信頼関係を構築することができた。 ・学年会や校内支援会議を通して、個々のニーズや実態を把握すると共に、他学級との授業交換を推進し、外部機関や家庭との連携を図りながら、広く児童理解に努めた。 【次年度の方針】 ・様々な教職員が一人一人の児童に関わり、信頼関係を築きながら、児童の実態を十分に把握すると共に、職員間や外部機関との共通理解を図り、児童がよりよい学校生活を送ることができるよう、適切な支援を講じていく。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童 85%	①確かな児童理解に基づいた、児童にとって居がいのある学級づくりや道徳の授業実践などを通していじめを許さない態度の育成を図り、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ②学校生活アンケートや教育相談の実施、職員間で定期的な情報交換の場を確保することで児童や学級についての共通理解を図り、いじめの早期発見・早期対応に努める。また、いじめ等対策委員会を設置し、組織的な対応を図る。 ③携帯電話やメール等、情報モラル教育の強化に努めるとともに、「いじめゼロ強調月間」における取組や「宮っ子心の教育」に係る児童会主体の活動の充実を図り、保護者にも学年だよりなどを通じて啓発を行う。	B 【達成状況】 教職員 100% 保護者 83.5% 地域住民 100% 児童 96.4% ・日々のかかわりや教育相談、定期的なアンケートの実施を通して、児童の実態把握に努めることができた。また、気になる事案については職員間で情報を共有し、協力して支援・指導に取り組んだ。 ・学級での日常的な指導や道徳科の授業、「いじめゼロ強調月間」の実施などを通して、「いじめはいけないことである」という児童の意識が高まった。 ・携帯電話の利用に関する出前講座を行ったことで、情報モラルの意識が高まった。 【次年度の方針】 ・次年度も継続して取り組んでいくとともに、学校での取組を保護者に知らせる機会を増やせるように努める。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 教職員 85%	①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに認め励ます指導を行い、居がいのある学級経営に努める。 ②教育相談、Q U調査、定期的な校内アンケート等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と、校内全体での情報共有を図る。	B 【達成状況】 教職員 97.1% 保護者 91.1% 児童 96.7% ・教職員の肯定的回答が 97.1%で目標値を上回ったが、昨年度と比較すると肯定的回答が下回った。保護者の肯定的回答は、91.1%で、市の平均を上回った。 ・不登校の兆しを早期に発見し、適切な支援を行うことができるよう、学年会や校内支援会議を実施し、学校全体で対応した。また、必要に応じて、スクールカウンセラーや、外部機関との連携を図り、組織的に対応できた。 【次年度の方針】 ・児童にとって、所属感や連帯感を感じられる居心地の良い学級・学校づくりに努めると共に、不登校や不適応傾向の児童の早期発見や、適切な支援、すみやかな情報共有を徹底する。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。	①学校行事等において、児童が主体的に活動する場を工夫して設定し、活気あふれる学校づくりをする。 ②誰もが居場所を確保できる学級経	B 【達成状況】 教職員 100% 保護者 91.5% 地域住民 100% 児童 97.0% ・学校行事や縦割り班活動、多様な体験

3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	【数値指標】 保護者 85%	営に努める。 ③授業では、学習意欲を高める多様な体験的学習の工夫をする。 ④縦割り班活動や学年活動、及び日常的な交流活動を工夫して可能な限り実施し、児童が意欲をもって活動できる場を設定する。	学習を積極的に取り入れ、児童の意欲をもたせ、学習効果を高めるよう努めた。 ・QU 検査や教育相談の時間を有効に活用し居心地の学級経営に努めた。 【次年度の方針】 ・児童の実態や発達段階に応じた体験的な学習の場を取り入れたり、児童が主体的に活動できる場を設定したりしていく。 ・認め励ます指導を行い、一人一人を大切に学級経営に努める。
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童 85%	①『はつきり』『じっくり』『すつきり』という指導過程の授業を展開し、教材研究に努めるなどして分かる授業の充実を図る。 ②個・学級・学年の実態を把握するとともに、上学年生以上の算数でTTや少人数指導など、学習形態の工夫を図り、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ③教員の指導力の向上を目指し、研究授業や授業後の研究会及び、実技研修等を実施して、校内研修の充実を図る。 ④各学年の発達段階に応じて宿題の出し方を工夫したり、「家庭学習のすすめ」を家庭に配付したりして、保護者の協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。	【達成状況】 教職員 97.1% 児童 97.9% 保護者 87.5% ・高学年で教科担任制を取り入れることができた。 ・上学年以上の算数で、TTや習熟度別学習を取り入れ、個に応じた指導を行ってきた。 ・家庭学習強化週間（2回）の実施により、家庭学習の習慣化、周知を図った。家庭学習時間や自主学習の意識が高まり、意欲的に取り組んでいた。 【次年度の方針】 ・「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の内容が充実するよう指導する。 ・今年度に引き続き、必要に応じて複数の教員で学習指導を行う。
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①互いを認め合い、いたわり合い、補い合い、励まし合い、高め合う教職員を目指し、課題への対応や行事の運営等に、一丸となって取り組むよう努める。 ②学校スタッフの職務に応じた指導計画・実施計画の立案に努め、役割を明確にした組織運営に努める。 ③それぞれの強みを生かした校務処理ができるよう、学年・ブロックなどチームとして協力して校務に取り組む。	【達成状況】 教職員 82.9% ・職員会議や打ち合わせ等を活用し、課題の共通理解を図り、管理職のみならず教職員全体の意見も取り入れながら課題に対応できた。また、報告・連絡・相談を心掛け、課題を担当教員が一人で抱え込むことがないようにそれぞれの教職員の知識等を生かし、互いに補い合いながらより効果的な対応ができた。 【次年度の方針】 ・今まで通り学校の課題を学校全体で取り組むとともに、報告・連絡・相談を密にし、情報共有を図っていく。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ②教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	【達成状況】 教職員 68.6% ・今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、各種行事等が再開され、その対応に時間を割くことが増え、業務時間の増加につながった。 【次年度の方針】 ・今年度の経験を踏まえて、さらに行事の精選・見直しを行っていく。また、教職員の業務に対する意識改革にも取り組んでいく。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 教職員 85%	①小中一貫のカリキュラムに則った教育課程に従って、小・中の学びのつながりを意識して指導にあたる。 ②小中合同の取組を行う。(挨拶運動、サーキット運動、お弁当の日や共通献立の実施、食育だよりや学校園図書だよりの発行等) ③全校一斉の進学先中学校訪問により進学への不安解消や希望・期待感を高める。	【達成状況】 教職員 88.6% 保護者 72.8% 地域住民 80.0% 児童生徒 89.8% ・小中合同の取組が徐々に再開され、小中の学びのつながりを意識することができた。 ・昨年と同様、学校園図書だより、宮・MIYA・文庫、中学校の図書委員が書いたおすすめの本の紹介など小中合同の取組を実践した。 ・食育だよりをはじめ、共通献立や小中学校同日のお弁当の日を実施した。 ・全校一斉に進学先中学校訪問をすることで、進学への希望や期待感を高めることができた。 【次年度の方針】 ・今後とも小中連携を図り9年間を見通した計画を検討するとともに、保護者や地域住民へ取組内容等について学校 HP 等を利用し発信する。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者 85%	①地域協議会等と連携を図り、新たな地域人材の募集などを行いながら、学校支援ボランティア(地域探検の補助や学習支援ボランティア等)を活用した授業を計画的・継続的に実施する。 ②地域にある県立博物館・中央公園・市立図書館・文化会館・気象台等の文化施設を積極的に授業に活用する。 ③企業等との連携を図った体験型学習を積極的に実施する。 ④取組の内容について周知に努める。	【達成状況】 教職員 97.1% 保護者 90.1% 地域住民 100% 児童生徒 93.7% ・地域協議会等と連携を図り、新たな地域人材の募集などを行いながら、ミシンボランティアや読書ボランティア等、地域の教育力を活用した授業を実施した。 ・ふれあい文化教室・社会福祉協議会による点字及び手話教室、日産のオンライン工場の出前講座や地域の県立博物館・中央公園等を活用し、体験的学習を実施した。 ・特色を生かした教育活動を実施したときには、学年だより等で周知を図るようにした。 【次年度の方針】 ・引き続き、地域人材や教材、学習支援ボランティアを有効活用した授業を計画的・継続的に行う。 ・取組の内容について周知を図る際に、学校ホームページの活用を図るとともに、写真や活動内容、成果などのコメントも入れるようにする。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員 85%	①日常的に校内巡視を行うと共に定期的な安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③熱中症対策予防対策、感染症蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 教職員 97.1% 保護者 87.4% 地域住民 100% ・定期的な安全点検により、危険箇所を把握し、速やかな修繕に努めた。 ・計画通りに避難訓練等を実施し、備えを万全にした。 ・WBGT の指数を全校に分かるように掲示し、熱中症対策に努めた。 ・体育館にエアコンが設置されたので、安全に配慮した環境をつくることができた。 【次年度の方針】 ・ミライムや保健だより等を活用して教職員が共通理解を図り、時期に応じた保健指導や環境づくりをより一層進めていく。 ・毎月の安全点検を確実にを行い、機動班等と連携しながら迅速な対応を進める。

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員 85%	① 各クラスで活用できるよう I C T 機器の充実を図るとともに、授業の実態に応じて適切な I C T 機器を選択する。 ② I C T 支援員と連携し、1人1台端末の効果的な活用について校内で研修を行う等、I C T 機器活用における環境整備に努める。	B 【達成状況】 教職員 94.3% ・学年間で情報を共有しながら、効果的に ICT 機器を活用していた。 ・情報主任を中心に多様な活用方法について研修を行い、環境整備に努めた。 【次年度の方針】 ・引き続き、ICT 支援員と連携しながら1人1台端末の効果的な活用方法を学んでいく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 教職員 85%	① あいさつの大切さについて啓発したり、教職員が積極的に児童にあいさつをしたりすることで校内外でのあいさつの習慣が十分に身に付くよう指導する。 ② あいさつボランティアや委員会活動、学級での日常生活など様々な機会を通じてあいさつの推進を行い、あいさつの習慣化を図る。 ③ よりよいあいさつや返事の仕方、言葉づかいについて日常の指導の徹底を図る。 ④ 宮の原地域学校園全体であいさつ運動を実施する。	B 【達成状況】 教職員 91.4% 保護者 84.8% 地域住民 100% 児童 92.1% ・あいさつの大切さを指導したり、教員から積極的にあいさつをしたりしたことで、校内でのあいさつの習慣はよく身に付いた。 ・宮の原地域学校園であいさつ運動を実施することで児童へのあいさつの啓発を行った。 ・各学級から「あいさつ名人」を選出し、朝会で紹介することで、児童が「いいあいさつ」とは何かを考えるきっかけになった。 【次年度の方針】 ・校外でのあいさつについて、登校指導のときや、日々の生活の中などで指導していく。 ・感染症などの状況に応じて、児童を主体とするあいさつ運動などの活動を促進していく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 教職員 90%	① 児童の規範意識を高め、皆が安心・安全な学校生活を送れるよう、「みんなのやくそく（生活編）」や教師による生活当番活動による日常生活指導の充実を図り、職員が同一歩調で組織的・継続的な指導を行う。 ② 道徳科の授業などを通して、児童がルールやマナーの意味や必要性について理解を深め、生活の中での実践力を育成する。 ③ 保護者との連携・協力を図り、児童理解に基づく個に応じた適切な対応に努める。	B 【達成状況】 教職員 100% 保護者 92.7% 地域住民 100% 児童 94.6% ・「みんなのやくそく（生活編）」を中心に、学校生活に必要なルールやマナーについて教職員が共通理解を図り、同一歩調で継続的に指導にあたった。 ・生活当番の教員が、そのときの児童の実態に応じた生活目標を設定し、学校全体で意識できるようにしたことで、児童が課題意識をもって日々の生活を送ることができた。 【次年度の方針】 ・現在放送で行っている生活目標の周知を、児童がより意識できるよう、朝会などで行うようにする。 ・「みんなのやくそく（生活編）」の実施状況を振り返る時間を設けることで、児童の規範意識が高まるようにする。

B3 児童生徒は、自己肯定感・自己有用感を育んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①児童生徒が自分を見つめる場や機会を設定することにより、自己理解や自己受容を進める。 ②児童生徒の長所や進歩、頑張りなどを認め、自分への肯定的な気付きを促す。(自己肯定感) ③係活動や当番活動の充実とグループ活動の意図の設定により、他者とかかわる中で、自分のよさに気付かせるようにする。(自己有用感) また、集団活動の中で個に応じた役割を設定することにより、所属意識を高める。(自己有用感) ④児童生徒の短所などを受容するとともに、短所も見方を変えたと長所になるという「リフレーミング」の考えを生かす。	B 【達成状況】 教職員 97.1% 児童 81.8% ・係活動や当番活動を充実させることで、児童一人一人が学級への帰属意識を感じられるよう支援をした。 ・教育相談などでは、「リフレーミング」の考えを生かし、児童の個性を認めながら、一人一人が自己肯定感を高められるような声掛けをした。 【次年度の方針】 ・児童が自己肯定感を高められるように、認め、励ます指導をより一層充実させていく。 ・朝の会や帰りの会、特別活動などで、児童が自分を見つめる場や機会を設定できるようにする。
B4 児童は交通ルールを守って安全に登下校している。 【数値指標】 地域 85%	①地域・保護者・教職員が登下校指導を一体となって、月1回集団下校を実施する。その際、地区担当教員が登下校の様子を聞き、必要に応じて指導したり、一緒に下校したりして安全な登下校ができるようにする。 ②警察スクールサポーター、スクールガードチーフ等の協力を得て、交通安全教室を計画的・継続的に実施することで、自他の安全を守り、実践的な理解が深められるようにする。	B 【達成状況】 教職員 94.3% 児童 95.1% 保護者 93.9% 地域住民 100% ・登下校の安全やルールについて、共通理解を確実にに行い、困っていること等を担当地区教員と共に解決する時間を定期的に設定することで、安全への意識が高まった。引き続き連携を図りながら、子供の安全を見守っていく。 ・交通安全教室において、実験等を用いて、安全指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・各学年学級で、継続的に安全指導を行い、地域とも連携しながら取組を推進する。 ・引き続き、来年度も実践的な理解が深められるように努める。
B5 児童は学校や地域の為に積極的に働いている。 【数値指標】 児童 85%	①係活動や委員会活動、毎日の縦割り班清掃にめあてをもって取り組めるようにする。 ②校外の清掃活動として、なかよし通りや中央公園の「クリーン活動」を実施し、人のために働く喜びや地域への愛着を高められるようにする。 ③保護者とともに、愛校の日の清掃活動を実施し、学校を大切にしようとする心を育てる。	B 【達成状況】 教職員 91.4% 児童 84.0% ・清掃強化週間では、教職員に周知を図るとともに、放送で児童に声掛けをしたことで、児童がより一層清掃活動に一生懸命取り組む姿が見られた。 ・特に高学年では、「学校の為に」という自覚をもって、清掃や委員会活動に取り組む児童が多かったが、「地域の為に」という部分で、「クリーン活動」などの行事に思いが至らなかったため、肯定的回答率が下がったと考えられる。 【次年度の方針】 ・活動後の振り返りを丁寧に行うことで、児童が学校や地域の為に頑張っているということを実感できるように支援をする。

	B 6 学校・保護者・地域が一体となって、読書活動の充実に努めている。 【数値指標】 児童 85%	①クラスごとに落ち着いた雰囲気の中で朝の読書を週2回、行うとともに、図書室利用の時間の活用を工夫する。 ②各学年オープンスペースに読書コーナーを設置したり、おすすめの本を奨励したりし、読書に親しめる環境を作る。 ③図書委員や教職員による読み聞かせを月1回程度実施する。 ④長期休業中には、親子読書を実施し、読書活動への関心を高めるとともに、読書カードを掲示して、様々な本に興味をもたせる。	B 【達成状況】 教職員 100% 児童 67.1% 保護者 94.7% ・図書館司書を中心に、読書に親しむ活動を多く取り入れられた。 ・コロナ禍の影響が続いてしまい、休み時間等に積極的に図書室に行く習慣が定着しなかった。 【次年度の方針】 ・図書委員を中心に読書推進を啓発する活動に取り組んでいく。
	B 7 教職員は、ほめて伸ばす指導に努めている。 【数値指標】 児童 85%	①長所を伸展させるという視点に立ち、児童のよさや得意なことを見つけ、それをほめて伸ばす指導を行う。 ②「まごころカード」を活用し、児童のよさや頑張りを積極的に称賛するとともに、豊かな心を育てる小さな親切運動の推進を図る。 ③学校生活における児童の頑張りと活躍を認め、賞賛する表彰制度を行ったり、ホームページや各種たより等を利用したりして家庭や地域に知らせる。	【達成状況】 教職員 100% 保護者 88.9% 地域住民 100% 児童 93.4% ・全職員が共通の認識のもと「ほめて伸ばす指導」に取り組む指導に努めた。 ・日々の関わりから児童の実態やニーズを教職員が把握し、児童のよさや頑張りを十分に称賛してきた。 ・「まごころカード」などを通じて児童が友達のよさに目を向け、認め合えるように支援してきた。 【次年度の方針】 ・本校の特色である、児童のよさを認め称賛し、自己肯定感を高める指導を継続していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 教育活動全体状況

- ・アンケート結果、指標を達成できた項目は27項目中23項目であった。
- ・市全体の小学校の結果と比較すると、児童の肯定回答率は概ね市の平均と同程度であった。保護者については、「小中一貫・地域学校園の取り組み」「利用する人への安全に配慮した環境」の2つが、若干市の平均を下回った。地域住民についても、「小中一貫・地域学校園の取り組み」で市の平均を下回っており、教職員では「児童が持続可能な社会に関心を持っているか」「学校がチームとなり、協力して業務に取り組んでいるか」「勤務時間を意識した業務の効率化に取り組んでいるか」について下回り、次年度に向け十分検討を要す課題となった。

2 学校運営の状況

- ・A13「学校は一人一人が大切にされ、活気があり明るくいいきとした雰囲気である」の項目は、全ての評価対象者で90%を超えており、市の平均よりも上回っている。
- ・A16「教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については、日課表や業務の改善を行ってきたが、来年度も一番の課題として、さらに検討していく必要がある。
- ・A18「家庭・地域・企業との連携協力」については、学校活動への協力依頼や地域行事等、やり方を工夫したり、元に近いものに復活したりしてきたことで、肯定回答率が上昇した。
- ・A19「学校の安全な環境」については、安全点検や清掃活動の徹底と、修理等への迅速な対応を心掛け、安心して学校へ登校できる環境づくりに血を努めていく。

3 教育活動の状況

- ①生活
- ・A11：児童、教職員ともに、いじめを許さないという土壌ができあがっている。今後は、学校の取組や姿勢を学年だよりやホームページなどで保護者に周知することが必要。
 - ・B1：校内のあいさつはよくできているが、校外だと声が小さくなってしまったりあいさつを返せなくなったりする。あいさつの意義を、学級や学年、学校全体で改めて考える場を設けることで、自分から進んであいさつができるように支援していくことが必要。

・B5：児童は学校や地域のために当番活動や係活動に一生懸命に取り組むことができているが、児童の肯定的回答率は、教職員のものに比べて低く、目標数値に達しなかった。様々な活動の後に振り返りの場を設け、児童が自身の頑張りを自覚できるような支援をしていくことが必要。

②健康・体力

・A4「健康や安全」に関する肯定的回答率は、教職員・保護者・地域・児童全てにおいて92～100%で、市の平均と同等か若干上回っている。外遊びの奨励や工夫した教科体育を実践してきた結果が表れている。また、衛生面での保健指導も重点的に指導され効果が出ていると思われる。給食の配膳の仕方や会食の方法も徹底され、安全に・衛生的に給食の時間を過ごす意識が高まっている。また、安全・防災教育では、今年度は実践的な訓練が概ね行えた。今後も、登下校時の安全指導や防災訓練を各団体と連携して取り組んでいく。

③学力

・A1「児童の授業に対する主体的な取組」、A14「分かりやすいきめ細やかな指導」で、保護者はともにやく88%で市の平均と同程度の肯定回答であった、児童は約97%と肯定的な回答率が市の平均を上回っている。ITや少人数指導、家庭学習強化週間の実施、校内研修の充実等の成果や授業におけるねらいを明確化、課題提示の工夫、ねらいに即した振り返りの実施等により、学習内容の定着、学力向上が図られた。

・A6「英語を使つてのコミュニケーション」で、児童の評価が85.2%と市の平均を約2ポイント上回ったが、昨年度の校内の肯定割合よりも下回ってしまった。専科教員とALTが連携し外国語に関する意欲を高めるための授業展開を検討する必要がある。

・A9「宇都宮の良さ」については、児童の評価が88.5%で指標を上回ったものの、保護者の肯定回答割合は71.9%と低いので、今後も学校での取り組みを学年だよりやHP等で発信するとともに、児童へ社会科や生活科、総合的な学習（宇都宮学）、道徳を中心に、自分の住んでいるところの良さを意識付ける活動等、より一層努めていきたい。

・A8「デジタル機器や図書等を学習に活用しているか」では、児童の評価、88.92%と低くはないものの、十分とは言えない状況である。また、保護者の回答も83.9%と他の質問項目に比べ低い値となっている。端末の持ち運びについては、工夫する必要があるが、Chromebookの活用をより定着させ、授業や家庭学習において積極的に活用していきたい。一方、使い方のルール等は折に触れ確認し続ける必要がある。学習において学校図書館は、意欲的に活用する児童が多かったと考えられるが、読書活動については、今後も充実を図っていく必要がある。

④本校の特色

・B2「児童はきまりやマナーを守って生活している」については、評価対象者すべてにおいて90%を超え、市の平均を上回っている。今後も指導の基準となる「みんなのやくそく」を全職員が同一步調で指導するとともに、生活当番による日々の生活指導を徹底する。また、各場面で児童の振り返りの時間を設ける等規範意識が高まるようにする。

・B6「読書活動の充実」については、教師・保護者・地域すべて肯定回答率95%～100%と高かったが、児童の肯定回答割合が67.1%と昨年度の引き続き全項目の中でも一番低くなってしまった。児童の様子から読書への関心は高いと感じられるので、図書室の活用や朝の読書タイム、読み聞かせ、お話会、学校図書館司書の活用や調べ学習などを通して本の有効活用をさらに進めていく。

・B7「ほめて伸ばす指導」についての児童の評価は93.4%、地域は100%であったが、保護者評価が88.9%であった。目標の指標は達成できたものの、保護者の肯定割合は昨年度より3ポイント下回ってしまったので、引き続き、まごころカードや帰りの会での称賛、良さを認めた言葉かけなど、児童を認め励まし、自己有用感や自己肯定感の育成を目指す指導に努めていく。

7 学校関係者評価

・アンケート全体から見ると、富士見小は教職員が一丸となって頑張っていると感じられた。

・参観授業から、黒板の文字も丁寧で、準備もよくされていると感じた。

・児童に宇都宮の良さを知る意識を持たせるきっかけとして、地域と子どもたちのつながりを感じられる企画や、広報を積極的に行い、子どもに地域の貢献意識や安心感をもたせることが必要である。

また、宇都宮の今後の姿（LRT開通なども含めた、宇都宮駅東西の昔と今さらには今後の変貌）を学ぶ必要もある。

・持続可能な社会については、世界の関心事である。教職員の肯定回答率を上げるためにも、世界の中の日本として、諸外国の状況を学ばせていくことが大切である。

・学校運営の勤務時間と教師の「分かるように教えたい」という向上心には様々なジレンマがあると感じる。若い先生方が長く教職の道で勤務できるよう、効率化を重点に改革をしていくべきだと感じる。

・いじめ防止に対する取り組みは、ホームページやおたより等でさらに発信していく必要がある。また、教師の「いじめを許さない」という熱い思いを児童の心に響かせてほしい。

- ・地域との連携については、コロナ禍を経て中止されていたものがあるが、来年度復活を検討してほしい。
- ・あいさつについては、立哨当番の保護者からも意見をいただくことがあり十分ではないものの、校内や学年下校の際など上手にできる場面も多くあるので、教師や保護者が元氣よくあいさつする姿勢を見せていくことで、さらに徹底させていく必要がある。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度も目標とする指標を、おおむね達成できたので、次年度も各取組を継続することで、より確実に達成できることを目指していく。
 - ・「児童は宇都宮の良さを知っている」については、児童の肯定回答率が上がったものの、教職員や保護者の肯定回答率が低いままである。社会科や生活科、総合的な学習（宇都宮学）、道徳を中心に、LRTの開通や特産物など、宇都宮の発展を示す補助的な資料を準備し、教師が郷土の良さを伝える思いを強くもって指導する。
- 小中一貫教育の取り組みについては、今後とも小中連携を図り9年間を見通した計画を検討するとともに、保護者や地域住民へ、取組内容等についてHP等を利用し発信する。
- 地域学校園の共通目標で学校の重点目標である「自己肯定感を高める指導」については、教職員や保護者の評価と比べて児童の自己評価が低い傾向にあるため、今後も「認め励ます指導」を、学校と家庭で連携しながら取り組んでいく。
- あいさつは、「社会生活を円滑に営むうえで大切な基本的生活習慣の一つである。」という認識のもとに、日常の指導とともに、学級活動や道徳等の授業で取り扱い継続的に指導していく。また、小中合同のあいさつ運動を今後も実施し、その取組等を積極的に配信する。
- ・児童に「持続可能な社会」に関心をもたせることについて、教師自身が具体的に把握して指導できるように、学校行事や常時活動に言葉表記をするなど、分かる形で位置付けていきたい。
 - ・業務改善については、重複やあいまいな業務等、削減や効率化が必要なものを洗い出す。また、学年内の連携を一層深め、教材や教具の有効的な作成・活用を行うなど、教職員の意識改革にも取り組んで行く。